



9月1日は防災の日 防災訓練に参加しましょう ～災害に備え、防災知識の向上をめざす～

応急対策室

わが国では、毎年のように地震、台風、大雨などの自然災害が発生し、各地で多くの被害が出ています。なかでも、平成23年3月11日に発生した東日本大震災は、平成25年3月11日現在で死者・行方不明者が2万1千人を超えました。

また、首都直下地震や南海トラフの巨大地震といった大規模地震の切迫性も指摘されています。

さらに、最近では竜巻や局地的大雨による被害が多発しています。

このような状況の下、被害を最小限に抑えるためには、国民一人ひとりが災害に対する正しい知識を身につけ、いざというときに落ち着いて的確な行動をとることが重要であり、そのためにも、各地方公共団体、企業、地域コミュニティなどで行われる防災訓練に積極的に参加することが望まれます。

防災訓練では、情報の収集伝達、避難・誘導、初期消火、応急救護、地震体験など実践的な対応を経験するこ

とにより、一人ひとりが災害発生時の対応策を身につけることができます。また、いつ起きるかわからない地震・津波災害などに対する備えは、常日ごろから防災意識を持って生活することや防災訓練の体験などによって培われるものといえます。

国や地方公共団体では、毎年9月1日の「防災の日」及び8月30日から9月5日までの「防災週間」を中心に防災訓練を行いますので、積極的に参加し、いざという時に対応できる力を身につけましょう。

*防災訓練の日程は地域によって異なりますので、詳細はお住まいの地方公共団体にお問い合わせください。

地域で行われる防災訓練へは、自分の住んでいる地域の方々と共に“いざという時どうするか”という心構えで参加し、家族みんなで防災について話し合いましょう。

いざというときの備え確認チェック

- 非常持ち出し品の準備、避難場所までの順路など、避難するときの確認事項**
 - ・ 次の物はすぐに持ち出せるように用意しましょう。
現金、救急箱、懐中電灯、ライター、電池、毛布、食品、飲料水、ラジオなど
- 消火器の正しい使い方などの習得、冷静に火災を防ぐこと**
 - ・ 消火器は初期消火に有効なので正しい使い方を覚えましょう。
- 正しい情報の入手方法と家族や近隣の人々の安否情報を確認する方法**
 - ・ 携帯電話、インターネット、ラジオ、防災行政無線などで正しい情報を入手しましょう。
 - ・ 毎月1日・15日や防災週間などで災害伝言ダイヤル(171)が体験利用できるもので、使い方を確認して、いざというときに大切な人の安否情報が確認できるようにしましょう。
- 軽いけがの処置など、協力して行う応急救護の方法**
 - ・ 消防署などで行う救命講習会では、軽いけがの処置をはじめ心肺蘇生法について習得できますので、進んで参加しましょう。
- 地域住民等で協力して行う救出活動の方法**
 - ・ 大規模な災害時には消防車や救急車が直ぐに救出に向かえない場合もあるため、身近にあるノコギリ、自動車のジャッキ、バールなどを使用し、建物の倒壊や落下物などの下敷きになった人を地域のみんなが協力し合って救出できるようにしましょう。
- 避難前の安全確認**
 - ・ 停電から復旧した時の通電火災を防ぐため、電気のブレーカーを切りましょう。
 - ・ ガス漏れによる火災を防ぐため、ガスの元栓を閉めましょう。
- 家具等の転倒防止など、自分たちで事前に備えとしてできることの確認**
 - ・ 自分の身は自分で守る、自分たちのまちは自分たちで守る、という意識を持って生活しましょう。

総務省消防庁 生活密着情報

「地震などの災害に備えて～地震に自信を～」をぜひ参考にしてください。

<http://www.fdma.go.jp/html/life/jisin2jisin.html>

問い合わせ先

消防庁応急対策室 応急対策第2係 和田、山本、門屋
TEL: 03-5253-7527